甲虫コレクションガイド 14
ホシザキ野生生物研究所の甲虫コレクション

林　成多
〒 691–0076　出雲市園町 1664–2　ホシザキ野生生物研究所

Coleopteran Collection of the Hoshizaki Institute for Wildlife Protection, Izumo

Masakazu Hayashi
Hoshizaki Green Foundation, 1664–2 Sono, Izumo, 691–0076 Japan

はじめに

ホシザキ野生生物研究所 Hoshizaki Institute for Wildlife Protection は，公益財団法人ホシザキグリーン財団の事業の要として設置された施設であり，2001 年 4 月 21 日に島根県立宍道湖自然館の開館に合わせて開設された．開設当初は，宍道湖自然館の 2 階に設置された研究所で活動をしていたが，現在は，宍道湖グリーンパーク園内に 2007 年 2 月 9 日に竣工したホシザキ野生生物研究所に拠点を移して活動を行っている．

ホシザキ野生生物研究所の概要

現在のホシザキ野生生物研究所は，標本収蔵室，液浸標本室，図書室，飼育・観察室，作業室のほか，実習室などもある．甲虫類の乾燥標本は，標本室で保管している．また，水生甲虫類等の幼虫については，エタノール漬け標本を液浸標本室で保管している．また，近年は DNA の分析に利用ができるよう，特にヒメドロムシ科やヒラタドロムシ科などの水生甲虫類については，無水エタノール漬けサンプルを大型冷蔵庫で保管している．収蔵室の昆虫標本用スペースは大型ドイツ箱 1500 箱で，甲虫は 300 箱分を使用している（図 1，2）．

現在，昆虫標本の管理担当者が甲虫の専門であることもあり，甲虫類を中心としたコレクションが形成されつつある．隠岐も含めた山陰地方の甲虫相を概観できるようなコレクションを目指している．もちろん，甲虫以外の昆虫も充実を図っている．

甲虫コレクションの概要

1）全般

研究所開設が 2001 年ということもあり，コレクションの充実は発展途上である．全体のコレクションとして，甲虫類の標本は，概ね科ごとに整理されている．後でも述べるが，科によって充実度にはだいぶ差がある．標本がほとんどない科もあれば，科までは分けたもののほぼ未同定の科もある．

2）水生甲虫とネクイハムシ

筆者の専門とする水生甲虫類（水生オサムシ亜目・ガムシ上科・ダルマガムシ科・マルハナノミ科・水生のマルトゲムシ上科など）とハムシ科ネクイハムシ亜科については，全国で採集した標本が保管され，種ごとに整理も行われている．筆者の研究

図 1．収蔵室の甲虫類標本の棚．移動式棚となっている．

図 2．収蔵状況．標本箱は縦置きとしている．

材料でもあるが，外部の専門家による研究にも利用されている（例えば，Minoshima, 2016）.

3) 隠岐諸島の甲虫

2009 年より島前も含めた隠岐諸島の昆虫相調査を実施しており，特に隠岐での普通種の記録を主な目的として，得られた標本の保管をしている．これらの成果の結果について，林・門脇（2012, 2018）において隠岐産の甲虫目録としてまとめているが，未同定の標本も多く残されている.

4) 大山の甲虫

中国地方の最高峰である大山（伯耆大山）は，山陰地方の甲虫相を考える上でも重要な地域である．ホシザキ野生生物研究所では，2004 年から 2008 年まで大山の特別保護地区を含む地域の昆虫類調査を実施し，甲虫類全般についても採集を行った（林ほか，2012）．その後も調査は蓄積しており，大山産の甲虫類の標本が蓄積されている.

5) 海岸の甲虫

筆者が島根県の海岸で昆虫相調査（河上・林，2007）を行った時に採集した標本が保管されている．その後も，昆虫類全般を対象とした調査を継続しており，標本の蓄積を行っている.

6) 出雲地方の甲虫

ホシザキ野生生物研究所の所在地である出雲市を中心として，松江市や雲南市など，宍道湖・中海周辺や斐伊川水系で採集した甲虫類の標本が保管されている．また，雲南市木次町にある自然公園「ふるさと尺の内公園」を管理しており，普及啓発での利用や管理を行いつつ，生物相調査を実施している．甲虫類については，カミキリムシ科やハムシ科などについて発生消長の調査を行っており（藤原・林，2007），これらの標本も保管されている.

出雲地方の甲虫相を語る上で，近木英哉・森山正治・門脇久志の各氏から寄贈されたコレクションも貴重である．これらの標本には，山陰むしの会の会誌「すかしば」等に報告された標本も含まれている．また，斐伊川水系で実施された河川水辺の国勢調査の標本も一部ではあるが，保管している.

7) タイプ標本

ホシザキ野生生物研究所には現在，ホロタイプは保管していない．いくつかのパラタイプ標本を保管している.

さいごに

甲虫コレクションを紹介するにあたり，収蔵点数など明記すべきであるが，現時点で把握に至っていない．また，未マウント・未ソートの標本も多数あり，いかに利用しやすくするか，データベース等への登録をどうするかが，今後の大きな課題である．特に甲虫の分類学的研究では，コレクションを積極的に利用してもらいたいと考えているので，標本の有無をぜひ問い合わせて頂きたい．DNA 分析用のサンプルについても要望があれば，可能な限り対応したい．山陰産の甲虫を研究材料に利用してもらい，論文が出版されることによって，山陰地方の甲虫相解明が進む事を期待している.

謝辞

隠岐や大山等での調査を実施するあたり，雲南市の門脇久志氏には多大なるご支援をいただいている．記して感謝申し上げる.

引用文献

藤原淳一・林　成多 , 2007. 島根県雲南市木次町ふるさと尺の内公園の昆虫相 (1) ホソカミキリムシ科・カミキリムシ科・ハムシ科（甲虫目ハムシ上科）. ホシザキグリーン財団研究報告 , (10): 211–223.

林　成多・門脇久志 , 2012. 隠岐諸島の甲虫類目録(1930–2011). ホシザキグリーン財団研究報告特別号 , (5): 1–120.

林　成多・門脇久志 , 2018. 隠岐諸島の甲虫類目録 補遺（2012–2016）. ホシザキグリーン財団研究報告 , (21): 1–26.

林　成多・門脇久志・松田隆嗣・藤原淳一 , 2012. 鳥取県大山における昆虫類の生息状況 . ホシザキグリーン財団研究報告特別号 , (7): 49–98.

河上康子・林　成多 , 2007. 日本海沿岸の海岸性甲虫類の研究 (2) 島根半島 . ホシザキグリーン財団研究報告 , (10): 37–76.

Minoshima, Y. N., 2016. Taxonomic review of *Agraphydrus* from Japan（Coleoptera: Hydrophilidae: Acidocerinae）. Entomological Science, 19 (4): 351–366.

（2019 年 3 月 10 日受領，2019 年 5 月 10 日受理）

◇学会の発行物・バックナンバーの販売委託先◇

昆虫文献　六本脚

〒 102-0075 東京都千代田区三番町 24-3
三番町 MY ビル 3 階
TEL: 03-6825-1164
FAX: 03-5213-1600
E-mail: roppon-ashi@kawamo.co.jp
URL: http://kawamo.co.jp/roppon-ashi/